

伊賀市 事務事業評価シート

ソフト事業

事業名	963	外国人児童生徒サポート事業	会計	01	一般会計
基本施策	31	個性を伸ばし、夢を追い求められる教育を進める	款	10	教育費
担当部課名	教育部 学校教育課		項	01	教育総務費
作成者氏名	加納 圭子	連絡先	目	03	義務教育振興費
		22-9676	細目	102	児童生徒指導経費
			細々目	05	外国人児童生徒サポート事業

事業の計画・内容

事業の目的	対象等(何を、誰を) 市内の外国人児童生徒	成果(どうなるのか) 就学を促進し、日本語指導を行うことで、外国人児童生徒が将来に展望を持って生活できるようになります。		
本年度事業内容	1.「ことばの教室」実施 2.「高校進学ガイダンス」開催 3. 国際理解教育研修会の開催			
開始年度	平成 14 年度	終了年度	平成 年度	根拠法令・要綱等

投入資源

		H17	H18(予算)	H19(予算)
①投入人員	正規職員 (人)	0.2	0.16	0.16
	人件費合計(A)	1,440	1,152	1,152
②支出内訳(千円)	事業費(B)	800	800	800
	委託料	800	800	800
	その他			
	合計(A+B)	2,240	1,952	1,952
③財源内訳(千円)	特定財源			
	国県支出金	800	800	800
	地方債			
	受益者負担			
	その他特財			
	一般財源	1,440	1,152	1,152
上記①～③に関する特記事項				

事業実績

活動指標	単位	実績値			目標値		
		H17	H18	H19	H17	H18	H19
「ことばの教室」開催回数	回	40	40	40			
「高校進学ガイダンス」開催回数	回	1	1	1			
研修会開催回数	回	2	2	2			

評価指標

事業の目的の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	H17	H18(目標)	H19(目標)
外国人生徒の中学校卒業後の進学及び就職率	市内で生活する外国人生徒が、目的を持って就学し、中学校を卒業後、進学あるいは就職という進路保障が十分できたかを指標としました。	%	91 目標 (100)	100	100
			目標 ()		

事業開始時からの状況変化及び事業の改善点等

伊賀市における外国籍の子どもたちは、年々増加し、平成18年7月1日現在で、小学生148人、中学生27人で、そのうちの多くが日本語指導を必要としています。受け入れ拠点校として、上野東小学校と緑ヶ丘中学校に外国人の児童生徒のための日本語指導の学級を設置していますが、住まいや通学の関係で、居住区域の学校へ通学することが増えています。ポルトガル語等の外国語がわかる教職員がいないために対応に窮することもあり、子どもたちに十分な支援をしきれないこともあります。多くの団体やボランティア等の協力も得て、しだいに個々の生徒に確かな学力が身につけてきているのも事実です。毎年2学期に開催している「高校進学ガイダンス」は、進路を考える中学生とその保護者に大きな支援の場となっていますので、市内の外国人児童生徒に周知を徹底していきたいと思っています。

評価	必要性	4	外国籍の子どもたちが、市内の学校に就学しようとしたとき、言葉や文化の違いに戸惑うことが多々あります。子どもたちは、NPO団体の支援による「ことばの教室」や拠点校における日本語教室において日本語の習得を支援することは言うまでもなく、「高校進学ガイダンス」に参加することで日本の高等学校を身近に感じ、目標を持って学習することができています。同時に、外国籍の子どもたちを受け入れる全ての子どもたちが、より確かな国際理解を深める機会を得ていますので、継続していく方向で考えています。	総合評価 A
	有効性	4		
	達成度	3		
	効率性	3		